



国際線「燃油特別付加運賃」の改定を申請 (2022年2月～3月発券分)

2021年12月22日

第 21094号

JALは、2022年2月から適用する「燃油特別付加運賃」(通称「燃油サーチャージ」)の適用額改定を本日、国土交通省に申請しました。

JALでは、燃油特別付加運賃額を2カ月ごとに、直近2カ月間の燃油市況価格平均に基づき見直しています。2021年10月から11月のシンガポールケロシン市況価格2カ月平均は、1バレルあたり91.14米ドルでした。これに同期間の為替平均1米ドル113.60円を乗じたシンガポールケロシン市況の円貨換算額は10,354円となり、2022年2月から3月に発券される航空券に適用される燃油特別付加運賃は、条件表のZone E(10,000円基準)の金額に改定します。

【国際線「燃油特別付加運賃」の概要】

適用期間：2022年2月1日(火)から3月31日(木)発券分まで

運賃額：日本発旅程(金額はお一人さま一区间片道あたり)

	現行:ゾーンC (8,000円基準)	改定後:ゾーンE (10,000円基準)
韓国・極東ロシア	600円	1,500円
東アジア(除く韓国・モンゴル)	2,800円	4,500円
グアム・パラオ・フィリピン・ベトナム・モンゴル・ロシア(*1)	3,300円	5,000円
タイ・マレーシア・シンガポール・ブルネイ・ロシア(*2)	5,000円	8,500円
ハワイ・インドネシア・インド・スリランカ	6,600円	11,000円
北米・欧州・中東・オセアニア	11,600円	17,500円

(*1)イルクーツク、(*2)ノヴォシビルスク

◆ 改定条件

- 2022年2月1日(火)から3月31日(水)までの発券分については、今後の航空燃油価格の水準にかかわらず、上記適用額からの変更は原則行いません。
ただし、政府認可状況により、金額や改定時期、適用期間が変更となる場合があります。
- 2022年4月以降発券分の燃油特別付加運賃については、2022年2月にご案内予定です。
- 2カ月間の市況平均が1バレルあたり6,000円を下回った場合、本運賃を適用しません。

◆ 適用条件

- 大人・小児ともに同額をご負担いただきます。座席を使用されない2歳未満の幼児は対象外です。また、JALマイレージバンク国際線特典航空券ご利用のお客さまにも同額をご負担いただきます。
- 航空券ご購入後に払戻しする場合、燃油特別付加運賃には取消手数料は適用されません。

最新情報、詳細情報は <http://www.jal.co.jp/inter/if.html> にて更新します。

以上